

国際講演会開催記録

CP : Contact Person

第1回 1981 昭和56	講演者	Dr. Arthur C. Upton (1923.2.27 生)		
	所属	アメリカ ニューヨーク大学環境医学研究所 所長		
	滞在期間	1981.9.19-10.13 25日間		
	C P	田ノ岡 宏 国立がんセンター研究所 部長		
	演 題 および 開催地	The Role of DNA Damage in Radiation and chemical Carcinogenesis 放射線および化学発がんにおける DNA 損傷の役割	東	京
		A Strategy for the Prevention of Cancer がんの予防についての対策	札	幌
Cancer Prevention: Lessons from Our Experience with Radiation がんの予防・放射線についての我々の経験からの教訓		佐	賀	
Evolving Perspectives on the Causes and Prevention of Cancer がんの起因とその予防についての展望		東	京	
Radiation Carcinogenesis: Problems and Paradoxs 放射線発がんの問題点とパラドックス		京	都	
Approaches to the Prevention of Cancer: Pathways and Pitfalls がん予防への道・その道程と陥し穴	金	沢		
第2回 1982 昭和57	講演者	Dr. James A. Miller (1915.5.27 生) Dr. Elizabeth C. Miller (1920.5.2 生)		
	所属	アメリカ ウィスコンシン大学マッカードゥル癌研究所 教授		
	滞在期間	1982.11.6-11.21 16日間		
	C P	田ノ岡 宏 国立がんセンター研究所 部長		
	演 題 および 開催地	Studies on the Metabolic Activation of Naturally Occurring Carcinogens: Alkenylbenzene Derivatives and Ethyl Carbamate 自然界に存在する発癌物質(アルケニルベンゼン誘導体およびエチルカーバメイト)の代謝活性化に関する研究	東 京	名 古 屋 岡 山
Metabolic Activation and DNA adducts of chemical Carcinogens 化学発がん物質の代謝活性化と DNA 結合物		滋	賀 東 京	
The Initiation and Promotion Stages of Chemical Carcinogenesis 化学発がんにおけるイニシエーションとプロモーションの段階		静	岡	
第3回 1983 昭和58	講演者	Sir Richard Doll (1912.10.28 生)		
	所属	イギリス オックスフォード大学グリーンカレッジ 学長		
	滞在期間	1983.10.8-10.31 24日間		
	C P	田ノ岡 宏 国立がんセンター研究所 部長		
	演 題 および 開催地	The Prevention of Cancer: Practical Prospects 癌の予防・その実生活における見通し		東 京 仙 台 秋 田 名 古 屋 長 崎 京 都

第4回 1984 昭和59	講演者	Dr. Bruce N. Ames (1928.12.16 生)		
	所属	アメリカ カリフォルニア大学パークレー校 主任教授		
	滞在期間	1984.5.12-5.28 17日間		
	C P	田ノ岡 宏 国立がんセンター研究所 部長		
	演題 および 開催地	Dietary Carcinogens and Anticarcinogens: Oxygen Radicals and Degenerative Diseases 食品に含まれる発がん物質と抗発がん物質・酸素ラジカルと変性疾患	東 札 金 徳 岡	京 幌 沢 島 山
第5回 1985 昭和60	講演者	Dr. Manfred F. Rajewsky (1934.7.24 生)		
	所属	西ドイツ エッセン大学細胞生物学研究所 所長		
	滞在期間	1985.10.11-10.24 14日間		
	C P	田ノ岡 宏 国立がんセンター研究所 部長		
	演題 および 開催地	Carcinogenesis in the Developing Nervous System: Molecular and Cellular Aspects 発展しつつある神経組織における発がんの機構・分子および細胞面での様相	東 前 広 大	京 橋 島 阪
第6回 1986 昭和61	講演者	Dr. George Klein (1925.7.28 生)		
	所属	スウェーデン カロリンスカ研究所 教授		
	滞在期間	1987.3.1-3.11 11日間		
	C P	寺田 雅昭 国立がんセンター研究所 部長		
	演題 および 開催地	Multistep Scenarios in Tumor Development 多段階発がんに関する研究	東 福 浜	京 岡 松
第7回 1987 昭和62	講演者	Dr. Henry C. Pitot (1930.5.12 生)		
	所属	アメリカ ウィスコンシン大学マッカードゥル癌研究所 所長		
	滞在期間	1988.3.1-3.13 13日間		
	C P	高山 昭三 国立がんセンター研究所 所長		
	演題 および 開催地	Quantitative Studies of Multistage Hepatocarcinogenesis 多段階的肝がん発生に関する研究	東	京
	Studies of Multistage Hepatocarcinogenesis in vivo and invitro 生体内・生体外における多段階的肝がん発生に関する研究	札	幌	
	Hepatic Carcinogenesis 肝がん	金	沢	
	Studies on the Regulation and Structure of the Rat Liver Serine Dehydratase Gene, mRNA and Protein ラット肝のセリンデヒドラターゼ遺伝子、メッセンジャーRNAおよび蛋白の構造と調節機構の研究	徳	島	

第 8 回 1988 昭和 63	講 演 者	Dr. Brian MacMahon (1923.8.12 生)	
	所 属	アメリカ ハーバード大学 教授	
	滞在期間	1989.2.22-3.8 15 日間	
	C P	渡辺 昌 国立がんセンター研究所 部長	
	演 題 および 開催地	Prevention of Cancer: Role of Epidemiology 癌の予防・疫学の役割	東 京 名 古 屋 福 岡 大
第 9 回 1989 平成 1	講 演 者	Dr. Pelayo Correa (1927.7.3 生)	
	所 属	アメリカ ルイジアナ州立大学 教授	
	滞在期間	1989.11.19-11.28 10 日間	
	C P	江角 浩安 国立がんセンター研究所 部長	
	演 題 および 開催地	The Cause of Gastric Cancer: A Multidisciplinary Approach 胃癌の原因・集学的研究	広 島 奈 古 屋 名 東 京
第 10 回 1990 平成 2	講 演 者	Dr. Ruth Sager (1918.2.7 生) Dr. Arthur B. Pardee (1921.7.13 生)	
	所 属	アメリカ ハーバード大学 教授	
	滞在期間	1990.10.20-11.4 16 日間	
	C P	横田 淳 国立がんセンター研究所 室長	
	演 題 および 開催地	Tumor Suppressor Genes がん抑制遺伝子 Molecular Studies of Cellular Growth Control 細胞増殖調節機構に関する分子生物学的研究	東 京 松 本 大 阪 京 都
第 11 回 1991 平成 3	講 演 者	Sir Michael Stoker (1918.7.4 生)	
	所 属	イギリス 王室がん研究財団研究所 名誉所長	
	滞在期間	1992.4.12-4.19 8 日間	
	C P	寺田 雅昭 国立がんセンター研究所 副所長	
	演 題 および 開催地	Cytokine Regulation of the Movement of Normal Cells and Tumor Cells サイトカインによる正常細胞及びがん細胞の動きに対する制御 Contact Suppression of Tumor Cells 接触によるがん細胞の増殖の制御 Motogenic cytokines: Regulation of Cell Motility 細胞運動促進性サイトカイン・細胞運動の調節	東 京 福 岡

第 12 回 1992 平成 4	講 演 者	Dr. Lorenzo Tomatis (1959.1.2 生)		
	所 属	フランス 国際がん研究所 所長		
	滞在期間	1993.3.20-3.28 9日間		
	C P	寺田 雅昭 国立がんセンター研究所 所長		
	演 題 および 開催地	The Varying Emphasis over Time on the Role of Environmental Risks for Human Cancer ヒトがん発生における環境危険因子の重要性に関する時代的変遷	東 京 名 古 屋 広 島	
第 13 回 1993 平成 5	講 演 者	Dr. Lee W. Wattenberg (1921.12.22 生)		
	所 属	アメリカ ミネソタ大学医学部 教授		
	滞在期間	1994.2.7-2.17 11日間		
	C P	寺田 雅昭 国立がんセンター研究所 所長		
	演 題 および 開催地	Chemoprevention of Cancer がんの化学予防	京 都 奈 東	良 京
第 14 回 1994 平成 6	講 演 者	Dr. Allan H. Conney (1930.3.23 生)		
	所 属	アメリカ ラッガーズ・ニュージャージー州立大学薬学部 教授		
	滞在期間	1994.10.9-10.18 10日間		
	C P	西野 輔翼 国立がんセンター研究所 部長		
	演 題 および 開催地	Pharmacological Implications of Microsomal Enzyme Induction ミクロソーム酵素誘導の薬理学的意義 Inhibitory Effects of Dietary Chemicals on Carcinogenesis 食品中化学物質の発がん抑制効果	札 幌 東 京 静 岡	
第 15 回 1995 平成 7	講 演 者	Dr. Peter K. Vogt (1932.3.10 生)		
	所 属	アメリカ スクリプス研究所 部長		
	滞在期間	1995.11.8-11.22 15日間		
	C P	寺田 雅昭 国立がんセンター研究所 所長		
	演 題 および 開催地	Transcriptional Control and Cancer 転写制御とがん	大 阪 金 沢 東 京	
第 16 回 1996 平成 8	講 演 者	Dr. Alfred G. Knudson, Jr. (1922.8.9 生)		
	所 属	アメリカ フォックスチェイスがんセンター		
	滞在期間	1997.3.2-3.13 12日間		
	C P	横田 淳 国立がんセンター研究所 部長		
	演 題 および 開催地	Hereditary Cancer 遺伝性腫瘍	東 京 熊 本 兵 庫	

第 17 回 1997 平成 9	講 演 者	Dr. Inder M. Verma (1947 生)		
	所 属	アメリカ ソーク研究所 教授		
	滞在期間	1998.3.12-3.18 7日間		
	C P	寺田 雅昭 国立がんセンター研究所 所長		
	演 題 および 開催地	Gene Therapy: Progress and Problems 遺伝子治療・進歩と問題点	金 沢 京 都 東 京	
第 18 回 1998 平成 10	講 演 者	Dr. Philip C. Hanawalt (1931.4.25 生)		
	所 属	アメリカ スタンフォード大学 教授		
	滞在期間	1999.3.1-3.11 11日間		
	C P	横田 淳 国立がんセンター研究所 部長		
	演 題 および 開催地	DNA Repair and Human Genetic Disease DNA 修復とヒトの遺伝性疾患	東 京 仙 台 熊 本	
第 19 回 1999 平成 11	講 演 者	Dr. Harald zur Hausen (1936.3.11 生)		
	所 属	ドイツ ドイツがんセンター 研究所長		
	滞在期間	1999.10.20-10.26 7日間		
	C P	広橋 説雄 国立がんセンター研究所 所長		
	演 題 および 開催地	Virus-linked carcinogenesis: a wide spectrum of different mechanistic contributions ウイルスによる発がん、その他様なメカニズム	東 京	
	Pathogenesis of Papillomavirus-linked Human Cancers パピローマウイルスに関連したヒトがんの病因	熊 本		
	Cancers of the Hematopoietic System: A Model for Cancer-causation by Infectious Agents? 造血器系のがん・感染症による発がんのモデル	名 古 屋		
第 20 回 2000 平成 12	講 演 者	Dr. Gerald N. Wogan (1930.1.11 生)		
	所 属	アメリカ マサチューセッツ工科大学 教授		
	滞在期間	2001.3.4-3.16 13日間		
	C P	中釜 斉 国立がんセンター研究所 部長		
	演 題 および 開催地	Genotoxicity of Nitric Oxide: Evidence from <i>in vitro</i> and <i>in vivo</i> Models <i>In vitro</i> および <i>in vivo</i> 実験モデルにおける窒素酸化物の遺伝子毒性の証拠	東 京 岡 山	
	Aflatoxin as a Human Liver Carcinogen: A Paradigm for Molecular epidemiology ヒト肝臓に対する発がん物質アフラトキシン・分子疫学的研究のひとつのモデル	奈 良		

第 21 回 2001 平成 13	講 演 者	Dr. Robert A. Weinberg	
	所 属	アメリカ ホワイトヘッド医学生物学研究所 研究員	
	滞在期間	2002.3.3-3.9 7日間	
	C P	村上 善則 国立がんセンター研究所 室長	
演 題 および 開催地	Genetic Rules Governing Human Cancer Cell Formation ヒト細胞のがん化を支配する遺伝子の法則	東 京	京 都
第 22 回 2002 平成 14	講 演 者	Dr. Cartis C. Harris	
	所 属	アメリカ 国立がん研究所 部長	
	滞在期間	2002.11.3-11.13 11日間	
	C P	横田 淳 国立がんセンター研究所 部長	
演 題 および 開催地	p53, Inflammation, and Cancer p53、炎症とがん	東 京	
	Molecular Epidemiology of Human Cancer ヒトがんの分子疫学	浜 松	
	Gene-Environment Interactions of Cancer がんにおける遺伝子と環境の相互作用	沖 縄	
2003 平成 15		講演者の都合により延期	
第 23 回 2004 平成 16	講 演 者	Dr. Kenneth Olden	
	所 属	アメリカ 国立衛生研究所 国立環境健康科学研究所 所長	
	滞在期間	2004.10.3-10.11 9日間	
	C P	若林 敬二 国立がんセンター研究所 副所長	
	演 題 お よ び 開 催 地	Toxicogenomics: New Tools for Studying Pathways to Disease トキシコゲノミクス：病気発生への経路を探る新しい研究手法	東 京

第 24 回 2004 平成 16 H15 延期分	講 演 者	Dr. Andrew C. von Eschenbach		
	所 属	アメリカ 国立がん研究所 所長		
	滞在期間	2005.2.19-2.22 4 日間		
	C P	垣添 忠生 国立がんセンター 総長		
	演 題 お よ び 開 催 地	The Future: A Time When No One Suffers or Dies from Cancer 誰もがんにかからず、がんで死なない時を目指して		東 京
第 25 回 2005 平成 17	講 演 者	Dr. Lawrence A. Loeb		
	所 属	アメリカ ワシントン大学 教授		
	滞在期間	2005.10.9-10.20 12 日間		
	C P	益谷 美都子 国立がんセンター研究所 プロジェクトリーダー		
	演 題 お よ び 開 催 地	Creation of Enzymes for Biochemistry in Cancer Gene Therapy 生化学的がん遺伝子治療における新規酵素の創製		千 葉
	Mutator Phenotype in Cancer がんにおけるミューテーター形質		東 京	
	Mutations in Cancer and Aging がんと老化における変異		熊 本	
第 26 回 2006 平成 18	講 演 者	Dr. Steven R. Tannenbaum		
	所 属	アメリカ マサチューセッツ工科大学 教授		
	滞在期間	2007.3.9-3.18 12 日間		
	C P	戸塚 ゆ加里 国立がんセンター研究所 研究員		
	演 題 お よ び 開 催 地	The Role of Nitric Oxide in the Pathophysiology of Cancer がんの病態生理学における一酸化窒素の役割		東 京 大 阪 熊 本

第 27 回 2007 平成 19	講 演 者	Dr. Mary-Claire King		
	所 属	アメリカ ワシントン大学 教授		
	滞在期間	2007.10.27-11.6 11 日間		
	C P	西村 暹		
	演 題 お よ び 開 催 地	Genomic Analysis of Inherited Breast and Ovarian Cancer 遺伝性乳がんおよび卵巣がんのゲノム解析		東 京 京 都 札 幌
第 28 回 2008 平成 20	講 演 者	Dr. Mary J. C. Hendrix		
	所 属	アメリカ ノースウェスタン大学チルドレンズメモリアル研究 センター総長および研究所長		
	滞在期間	2008.10.18-10.25 8 日間		
	C P	西村 暹		
	演 題 お よ び 開 催 地	Reprogramming Metastatic Tumor Cells with an Embryonic Microenvironment: Convergence of Embryonic and Tumorigenic Signaling Pathways 胚微小環境による転移性悪性腫瘍のリプログラミング： 腫瘍と胚細胞におけるシグナル伝達の相似性		東 京 京 都 奈 良
第 29 回 2009 平成 21	講 演 者	Dr. Jan-Åke Gustafsson		
	所 属	スウェーデン カロリンスカ研究所教授・学科長 アメリカ ヒューストン大学核内受容体・細胞情報センター長 同大学 Robert A. Welch 記念教授		
	滞在期間	2009.7.27・ 8.6 11 日間		
	C P	中釜 斉		
	演 題 お よ び 開 催 地	Nuclear Receptors and Cancer 核内受容体とがん		東 京 埼 玉 札 幌

第 30 回 2010 平成 22	講 演 者	Dr. Charles L. Sawyers	
	所 属	アメリカ メモリアルスローンケタリングがんセンター プログラム長・ハワード・ヒューズ医学研究所研究員	
	滞在期間	2010.12.18・ 12.31 14 日間	
	C P	西村 暹	
	演 題 お よ び 開 催 地	Overcoming Resistance to Targeted Cancer Therapies 分子標的制がん剤に対する耐性の克服	東 京 京 都 名 古 屋